

■ 活動報告 ■

その 1 「タイ環境学習キャンプ」 報告**8.12~21**

永井咲さん

今回私にとっては 4 回目の研修参加となりました。今回も普通の旅行では味わえないような刺激的な体験をたくさんできました。

私は 3 日間、特別に他の参加者の皆さんと別行動でパンダと現地の学校に通いました。前々回、前回も同じように学校と一緒に勉強したのですが、その時はコミュニケーションができるほど英語が堪能でなかったため、身振り手振りやイラスト入りのタイ語指さし会話帳で乗り切ったことを覚えています。

彼女はバンライ市から 1 時間ほど車でかかるウタイターニー市の学校に通っているため、朝 5 時半起きで準備をしなくてはならず毎朝大変でした…。その分、朝ごはんを食べる朝市では朝から活気のある様子や実際にお坊さんが托鉢をしている所を見られました。

タイの学校は中高一貫で、特にパンダの学校では英語や中国語、歴史や体育、工業といったように様々なコースに分かれるそうです。彼女は私とは真逆の理数コースを取っていたため、日々の授業は数学と生物、地学ばかりでした…。一つ下の学年の授業でしたが、少なくとも地学は私が今習っているよりも遙かに難しそうでした。プログラミングの授業もありました。

唯一私の理解できそうだった週に 1 回の英語の授業はなんと先生が多忙なためキャンセル！？とのことで、私はそのタイミングで学年主任のような人に挨拶に行きました。

タイの学校は本当に自由で、直前に授業が入ったり無くなったりすることは当たり前、私の挨拶に行った職員室も授業中のはずなのに多くの学生が遊んだり勉強したりしていました。

今回は私服で通っていた前回までとは趣向を変えて、服装も 3 日間工夫してみました。1 日目は私の高校の制服を着たのですが、皆の制服は私の高校の制服をそのままタイに輸出したので

はないのか？と思うほどそっくり(タイの学校の学生服は全国統一のデザインらしいです)だったのでほとんどの人にパンダの制服を借りたのかと思われてしまいました…。

2 日目は黒の浴衣にしたところ、担任に全校の前で挨拶をしろと言われ、2400 人の前で「サワディーカー」と言うはめに…。その結果全校に存在が知れ渡ってしまったため所構わず写真撮影大会が始まってしまいました！小さな中 1 の女の子たちから軍服姿の先輩、はたまた先生方まで！ご飯中や移動中も写真や手を振ることを求められるのでつかの間アイドルになった気分を味わえました。

3 日目は体育(といっても名ばかりでバスケのドリブルをひたすらやるだけでした)があったので折角だからと体育着を購入したのですが、ある先輩からコスプレをするように頼まれ残りの半日はメイド服姿で過ごす羽目になってしまいました。もちろん、浴衣姿より多く写真撮影を求められたことは言うまでもありません…。

最後に、お世話になったクラスの皆に折り紙のリボンや手紙を配った所、大変喜んでもらえました。逆にたくさんのお土産をもらえて、特に私の浴衣姿のイラストをもらったのが嬉しかったです(≥▽≤)

まだまだ体験したことは書き切れないのですが長くなってしまっているのでやめておきます。今回は、英語がお互いある程度使えたことで意思疎通が容易になり、前回までより積極的に学校生活を楽しめたと思います。1 度この緩さに慣れてしまうと日本の学校が窮屈に感じてしまいますが、これもまた文化の違いということで勉強になりました。毎回私の学校に通いたいというわがままを叶えてくださる先生方、ポタンさん、パンダ、そして 3 日間 1 人にさせてしまったお姉ちゃん！ごめんなさい、そしてありがとうございました。



「タイ環境学習キャンプ」特集～はじまってから20年⑧

今年の夏も約10日間タイに行ってきた。去年に引き続き、ロップリーのシリワット先生のところで、約30名の小中学校の先生対象に環境学習のワークショップを行った。パンダキャンプでもワークショップを行う。こちらは午前中、小中学生30名、午後は近隣の大人対象である(30名)。ワークショップも役割を変化させてきたように思う。はじめは日本からのテクノロジーの紹介。そろそろ形を変えなければと思う。タイの地元で地元の身近なフィールドを使い、地元で入手でき

る材料を使って簡単な環境測定を行ったり、自分たちのライフスタイルを考えるものをしていきたい。運営委員会等で話し合っていきたいが、アイデアを持っていたら是非事務局まで連絡してほしい。とにかく来年も続きそうである。

今回は、ラジャバトプラナコーン大学とパンダキャンプとのなんとなくごちゃごちゃした人間関係がわかる若林さんの文章があったので紹介する。
(中込 卓男)

「タイの鳥 1より」 『自然教室』 若林卓司 日記より

私がプラナコーン教育大学(今はプラナコーンインスティテュート)で本格的に教え始めたのは1993年からだったと思う。その時、一緒に日本語を教えていたブンティワ先生のとりにして、理学部の先生を知るようになった。私もあいている時間、先生にお願いして授業を受けさせてもらった。ブラパー先生には生物学を、タルワイティップ先生には植物学を教えてもらった。当時、先生たちは環境教育を充実させようといういろいろな努力されていた。その中心になって活動されていたのが、今のTJクラブの会長のラッタワン先生。その手足となって動かれていたのがシリワット先生だった。先生たちは、学内や学外の学生たちのために多くの教育キャンプを実施されていた。そして、私も誘いを受けた。私が初めて参加したのは

カオヤイだった。その時、私はこの教育キャンプを手伝っていた何人かのプラナコーンの学生と知り合いになった。トゥットゥー、プイ、エーク、ボーイ、ノイなどがいたがトゥットゥーだけとは今でも連絡を取り合っている。その時、一人学外の人に来ていた。その人がシリポンさんで、当時WWFタイランドの職員だった。このシリポンさんは自分でも別個に教育キャンプを企画していた。そして、そのキャンプを「緑の学校」と呼んでいた。ボランティアはほとんどがプラナコーンの学生だった。トゥムは空軍の兵士だったが、トゥムも仕事が終わってから、プラナコーンの社会人コースで学んでいた。初めて参加したプラナコーンのカオヤイでのキャンプで親しくなって、シリポンさんから次の「緑の学校」に招待された。